



校長室だより

自立に向かって「自分から」

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第16号 令和4年12月6日

小美玉市立美野里中学校

「自由」について考える

去る7月17日（日）に、本校演劇部がみの〜れで、夏公演を行いました。私は、見ることができず、特に3年生には申し訳なかったという思いが残っていたのですが、先日公演のDVDができ上がり、見せていただきました。

演題は『夢屋』で、「自由の国」への切符を手に入れた登場人物たちが、「自由の国」に行ってみたら・・・というストーリーで、中学生や大人たちが「自由」について考え、行動する内容でした。

公演もさることながら、本校演劇部の日常的な活動を見に行くと、感動することしきりです。公演に向けて、1つの台詞の意味や演じ方を、学年関係なくみんなで論じ合っていたり、役を巡って真剣にオーディションをしていたり、大道具・小道具を工夫して自作したりしています。自分たちで、個性を發揮できるよい場所を創り出しています。皆さんにもご覧いただきたいという気持ちになります。

話を戻しますが、今回の公演を見て、そのテーマの「自由」とは、みんなで一度考えるべきものだと感じました。また、演劇部のみなさんは、なかなか難しいテーマによくチャレンジして、問題提起をしてくれたと思いました。（ちなみに、昨年度は、「命」がテーマでした。）

この劇では、「自由」の対局にあるものとして「きまり」が取り上げられていました。この世界に、自分一人しかいなくて、何をしてもよいということなら、誰も悩まないでしょう。したいことをすればよいのです。

でも、他の人がいるからこそ、

「他者の権利」

「他者に迷惑をかけないためのルール」

「子を守る義務を果たすための仕事」

などを考えざるを得ないのでしょう。それが「自由」を制限する悪いものなのかどうか。

「他者の権利を守らなくてよい世の中になったら」

「他者の迷惑を考えなくてよい世の中になったら」

「仕事をせず、子供の生活を守らなくなってよい世の中になったら」

一体どうになってしまうのでしょうか。

また、劇の中で「束縛された方が楽。」という台詞がありました。

このイラストのように、かごの中にいさえすれば、誰かがえさを与えてくれる。でも、そのかごを破り、外に出て「自由」を手にしたとたん、自分で餌を探さなくてはならないことになるのです。

「考え方」もそうです。ネット上には、様々な主張をする人があふれています。インフルエンサーになっている人の意見を、あたかも自分の考えのようにして話し、多数派になっていけば楽です。その人は実はそのインフルエンサーに縛られているのです。つまり、自分の思考の「自由」を奪われているのです。

自分の「自由」を守るというのは、意外にやっかいで、自分で稼ぎ、自分の頭で意思決定していかなければなりません。



みなさんは、自分なりに「自由に生きられているなあ」という実感をもてるようになるにはどんなことが必要だと思いますか。でも、自分なりの自由を探し求めていくことは、難しいけれど、楽しいことかも知れませんよ。